

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：13802

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12593

研究課題名(和文) 地域包括ケアシステムにおける住民の「自助」意識に働きかける自治体活動モデルの検討

研究課題名(英文) Considered the perspectives of public effort on the recognition of self-care under the community-based care system

研究代表者

鳥本 靖子 (Torimoto, Yasuko)

浜松医科大学・医学部・准教授

研究者番号：90566241

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：これから高齢期を迎える世代は、将来の生活・介護期間等の適切な認識を持っていない一面がある。平均寿命や介護年数について想定している年数で男女の違いはないが、現実の年数は異なっており、将来の暮らしの基本認識を持つ上で注意が必要と思われる。女性の方が自助努力を強く認識する一方で、将来の暮らしへの不安を感じている割合は男性より高い。女性の方が、高齢期の暮らしを慎重に考えているともいえる。保険制度に関しては、いずれも信頼が低い、その代わるものとしての費用等の自己の準備が追いついていない状況であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現状の地域包括ケアシステムにおける「自助」の課題を明確化することで、現在の高齢者への支援と比較して、今後一層自助が求められることが避けられない現役世代に対して、高齢期の生活に関する理解と備えの必要性についての働きかけの課題の基礎的検討ができるものとする。

研究成果の概要(英文)：The middle-aged might not recognized their life and period of caregiving in their elderly years. There was no significance about the average of life expectancy and the period of caregiving they expected among men and women. In fact, women might live a life longer than men and the period of needed caregiving among women might be longer than among men. Some attention should be paid to the consideration about the plan later in life. Women might tend to consider their self-care deeply later in their life. Women might feel anxiety about their future more than men. Women might consider their old age more carefully, compared to men. While there were few possibilities in public insurance systems among both men and women, they might not prepare for the future by themselves.

研究分野：地域看護学

キーワード：中高年者 地域包括ケアシステム 自助

### 1. 研究開始当初の背景

「団塊の世代」が75歳以上になり、高齢化率が30%を超える2025年を目標として、地域包括ケアシステムの構築が急がれている。地域包括ケアシステムには、「介護」「医療」「予防」の専門サービスと、その前提として「住まい」と「生活支援・福祉サービス」の相互の関係という5つの構成要素が謳われており、それらは「自助」「互助」「共助」「公助」のバランスの上になり立つという考えのもとにある。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、今後、「自助・互助・共助・公助」のバランスは変化していかざるを得ない。

社会保障が担う割合は縮小傾向にあり、介護保険の「共助」と公費負担の「公助」の大幅拡大の想定はなく(仁木, 2015)、「自助」「互助」の力が超高齢社会を生きる上で、一層強く求められるている。

介護保険導入以降、現在に至るまで、共助(介護保険)の制度の浸透と活用に重点が置かれてきたこともあり、高齢期の生活を送る上で介護問題について国民の自助・互助の認識は希薄化していると指摘されている。しかし、新たに構築される地域包括ケアシステムにおいては、「共助・公助に偏ったサービス提供では、体制の維持が不可能である」という認識を国民にさせることが「まず必要」との指摘もされている(筒井, 2009)。

「互助」については、個人の意識の希薄化に加えて、特に都市部の地域社会の希薄化の課題を抱えているものの(小辻, 2011)、地域包括支援センターや自治体の高齢福祉課等が中心となって、地域活動の支援や育成に取り組んでいる。その一方、「自助」については、住民に対する説明や意識的な働きかけが不可欠であると指摘されているが(地域包括ケア研究会, 2016)、その性質上、行政側が直接構築することの難しさもあり、住民への働きかけの取り組みは遅れているのが実情である。

そもそも、「自助」の定義は、国レベルで明確に示されているわけではない。平成27年度老人保健健康増進等事業による研究事業報告書において、地域包括ケアシステム構築に向けた制度とサービスの在り方として、「自助」について言及された(地域包括ケア研究会, 2016)。

そこで述べられている「自助」を参考にして、「自助」の概念を図2で示した。住民は、地域生活の継続のために、大きくは以下の3点を備える必要がある。

健康維持のセルフマネジメント

生活援助サービスは自ら購入か自己対応

地域社会との繋がり確保

(但し、上記の前提は、経済面の安定確保が必須。)

ところが、これら自助の～について、住民の認識と実際に対応する準備状況については把握されていない。また、住民への説明と働きかけ(活動モデル)の検討には、～を具体的な行動レベルで明確に示すことが重要となる。介護保険の運営を担う一部の自治体では、介護保険制度の制度維持がすでに厳しい状況にあり、住民の意識変革は喫緊の課題であり、自助への意識づけの対応の検討のためにも現状把握と課題の明確化が急がれる。また、今後の見通しとして、自助が一層強く求められていくことを鑑みれば、現状の課題と自治体の活動モデルの明確化は、現役世代に予め高齢期に必要な備えを具体的に示すことが可能となり、必要不可欠であると考えられる。

そこで本研究の目的は、住民に求められている自助について具体的な行動レベルで明確化し、それらに対する住民の認識と対応の可否について現状と課題を検証し、自助の意識の持てる働きかけの自治体の活動モデルを検討することである。

### 2. 研究の目的

地域包括ケアシステムの構築に際し、「共助」「公助」は縮小傾向にあり、住民に強く「自助」「互助」の役割分担が求められている。「互助」は、地域包括支援センターや自治体の高齢福祉課が中心となり取り組みを進めている。一方、「自助」は、具体的に何の準備が必要なのか、住民への明確な説明や取り組みは遅れている。しかし、介護保険の運営を担う一部の自治体は、介護保険制度の制度維持がすでに危機的状況にあり、住民の意識変革は喫緊の課題である。現状では、具体的内容を伴う「自助」を住民が認識しているかは疑問であり、その対応が急がれる。

本研究では、住民に求める自助の具体的な行動内容を提示し、それらに対する住民の認識と対応の可否について課題を検証し、今後の住民の意識に働きかける取り組みを検討するための基礎的資料を得ることである。

### 3. 研究の方法

先行文献や過去の厚生労働省の報告書等に基づき、各住民に求められている地域生活継続のための以下の3点に関する自助の概念として用いる調査項目について、分担研究者らと協議し、

質問調査項目を設定した。健康維持のセルフマネジメント、生活援助サービスは自ら購入か自己対応、地域社会との繋がり確保自助の認識と高齢期に向けた準備状況と対応の可否について把握するものとする。無記名自記入力式のインターネットアンケート調査(横断調査)を行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) 結果

調査対象とした東京都内の45歳から59歳の地域で暮らす男女1500人より回答を得た。但し、障害等によりすでに施設入所等で暮らしている場合は、調査対象から除外した。

男女別の比較を行った記述統計を報告する。(右表)

基本属性として、平均年齢は、51.41±4.15歳(男性51.45±4.16歳、女性51.36±4.14歳)で、男女に有意な差はない。

就労状況は、仕事をしている1168人(77.9%)・仕事をしていない332人(22.1%)となり、男女で違いが見られた。

高齢期への認識と生活状況への質問項目について、一部を抜粋して報告する。

次のような項目において、男女において差がみられた。現在健康管理ができていない(男性452人(58.7%)、女性519人(71.1%))、今後の暮らしに不安を感じる(男性325人(42.2%)、女性378人(51.8%))、生活上の困難は自助努力で克服すべきである(男性318人(41.3%)、女性356人(48.8%))、現在、地域の活動に加入・所属している(男性194人(25.2%)、女性262人(35.9%))、生活状況の困難に地域の人は協力すべきである(男性332人(43.1%)、女性356人(48.8%))、年金保険制度を信頼している(男性108人(14.0%)、女性73人(10.0%))は、それぞれ男女に有意な差がみられた。一方で、何歳まで生きると想定しているか、介護を受ける期間の想定年数、自身が介護を受ける費用は準備しているか、将来の孤独死について心配があるか、介護保険制度を信頼しているか、医療保険制度を信頼しているかの項目については、男女に違いは見られなかった。

表 男女別に見た現在の生活状況と高齢期への認識

|                      | 合計<br>1500(100)<br>n (%) | 男性<br>770(51.3)<br>n (%) | 女性<br>730(48.7)<br>n (%) | p値     |
|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------|
| 年齢(歳)                |                          |                          |                          |        |
| 平均年齢 (Mean ± SD)     | 51.41 ± 4.15             | 51.45 ± 4.16             | 51.36 ± 4.14             | 0.68   |
| 就労状況                 |                          |                          |                          |        |
| 仕事をしている              | 1168 (77.9)              | 711 (92.3)               | 457 (62.6)               | <0.001 |
| 仕事をしていない             | 332 (22.1)               | 59 (7.7)                 | 273 (37.4)               |        |
| 何歳まで生きると想定しているか      |                          |                          |                          |        |
| 平均年齢 (Mean ± SD)     | 78.36 ± 10.43            | 78.26 ± 10.76            | 78.45 ± 10.07            | 0.28   |
| 介護を受ける期間の想定年数        |                          |                          |                          |        |
| 平均年数 (Mean ± SD)     | 3.04 ± 6.20              | 3.02 ± 6.63              | 3.06 ± 5.72              | 0.79   |
| 介護を受ける費用は準備しているか     |                          |                          |                          |        |
| はい                   | 187 (12.5)               | 93 (12.1)                | 94 (12.9)                | 0.64   |
| いいえ・まだ十分でない          | 1313 (87.5)              | 677 (87.9)               | 1313 (87.5)              |        |
| 現在、健康管理ができていないか      |                          |                          |                          |        |
| できている                | 971 (64.7)               | 452 (58.7)               | 519 (71.1)               | <0.001 |
| できていない・どちらともいえない     | 529 (35.3)               | 318 (41.3)               | 211 (28.9)               |        |
| 今後の暮らしに不安を感じるか       |                          |                          |                          |        |
| ある                   | 703 (46.9)               | 325 (42.2)               | 378 (51.8)               | <0.001 |
| ない                   | 797 (53.1)               | 445 (57.8)               | 352 (48.2)               |        |
| 将来、孤独死について心配があるか     |                          |                          |                          |        |
| 大変・少し心配している          | 829 (55.3)               | 409 (53.1)               | 420 (57.5)               | 0.087  |
| あまり・全く心配していない        | 671 (44.7)               | 361 (46.9)               | 310 (42.5)               |        |
| 生活上の困難は自助努力で克服すべき    |                          |                          |                          |        |
| そう思う・ややそう思う          | 674 (44.9)               | 318 (41.3)               | 356 (48.8)               | 0.04   |
| あまり・そう思わない・どちらとも言えない | 826 (55.1)               | 452 (58.7)               | 374 (51.2)               |        |
| 現在、地域の活動に加入・所属しているか  |                          |                          |                          |        |
| はい                   | 456 (30.4)               | 194 (25.2)               | 262 (35.9)               | <0.001 |
| いいえ                  | 1044 (69.6)              | 576 (74.8)               | 468 (64.1)               |        |
| 生活上の困難に地域の人は協力すべき    |                          |                          |                          |        |
| そう思う・ややそう思う          | 688 (45.9)               | 332 (43.1)               | 356 (48.8)               | 0.03   |
| あまり・そう思わない・どちらとも言えない | 812 (54.1)               | 438 (56.9)               | 374 (51.2)               |        |
| 介護保険制度を信頼しているか       |                          |                          |                          |        |
| はい                   | 233 (15.5)               | 127 (16.5)               | 106 (14.5)               | 0.318  |
| いいえ・どちらでもない          | 1267 (84.5)              | 643 (83.5)               | 624 (85.5)               |        |
| 医療保険制度を信頼しているか       |                          |                          |                          |        |
| はい                   | 420 (28.0)               | 208 (27.0)               | 212 (29.0)               | 0.389  |
| いいえ・どちらでもない          | 1080 (72.0)              | 562 (73.0)               | 1080 (72.0)              |        |
| 年金保険制度を信頼しているか       |                          |                          |                          |        |
| はい                   | 181 (12.1)               | 108 (14.0)               | 73 (10.0)                | 0.017  |
| いいえ・どちらでもない          | 1319 (87.9)              | 662 (86.0)               | 657 (90.0)               |        |

##### (2) 考察

今後、高齢期を迎える世代は、将来の生活・介護期間等の適切な認識を持っていない一面が見られる。特に平均寿命や介護年数などは男女により異なるが、想定している年数で男女差がない結果となり、将来の暮らしの基本認識を持つ上で注意が必要と思われる。女性の方が現在の健康管理はできており、地域活動にも所属し、地域で協力した方がよいと思いつつも、自助努力も強く認識する一方で、将来の暮らしへの不安を感じている割合は男性より高いという結果から、女性の方が、高齢期の暮らしを慎重に考えているともいえる。保険制度に関しては、いずれも信頼が低い、その代わるものとしての費用等の自己の準備が追いついていない状況は、今後注意を要すると思われる。

##### (3) 結論

自助は高齢期になる前の準備が重要であるが、高齢期に暮らす生活・介護期間等について、実際の年数と異なる認識があり、生活イメージが持てていない。

具体的数値を示しつつ、認識が持ちやすくなるよう働きかけることが必要であると思われる。

実際の日々の活動と将来への不安を抱く状況が男女により異なる。しかし、保険制度については信頼を持っていない一方で、自分で費用の準備はまだできていないとする回答が非常に多いことから、男女差を考慮しつつ、今後の啓発等に注意していく必要があると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>鳥本靖子、保母恵、眞崎由香、松澤明美                             |
| 2. 発表標題<br>地域包括ケアシステムにおける人々の「自助」の意識について：今後、高齢期を迎える人々に着目して |
| 3. 学会等名<br>第40回日本看護科学学会学術集会                               |
| 4. 発表年<br>2020年   |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                       | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                | 備考 |
|-------|---|--------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 野呂 千鶴子<br>(Noro Chizuko)<br>(20453079)          | 国際医療福祉大学・保健医療学部・教授<br><br>(32206)    |    |
| 研究分担者 | 高野 龍昭<br>(Takano Tatsuaki)<br>(80408971)        | 東洋大学・ライフデザイン学部・准教授<br><br>(32663)    |    |
| 研究分担者 | 保母 恵<br>(Hobo Megumi)<br>(20757603)             | 国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・講師<br><br>(32206) |    |
| 研究分担者 | 柴崎 美紀 (小田切美紀)<br>(Shibasaki Miki)<br>(20514839) | 杏林大学・保健学部・准教授<br><br>(32610)         |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|